

改めて感じた「差別」の意味

熊本大学教育学部附属中学校

三年 田中 愛結

「障害者」というとどうしても周りの人とはちがう、ふつうの人ではないと思ってしまう。それは確かに事実上何かの障害を抱えています。それは確かに事実上何かの障害を抱えている訳なので間違いであると言うことは出来ません。しかし、それを理由に一線を引いてしまうこと。それは正しいとは言えないのではないのでしょうか。

私にはその「障害者」の類に位置される親戚がいます。以前事故に遭い、それ以降足を不自由にし、車椅子で生活されています。今でこそ言えますが、私は彼と初めて会ったとき、足が動かない事を知って完全に距離をとってしまったっていました。「ここより先、侵入禁止」と書かれたよそゆきの仮面を被って心を閉ざして。でも、はつきりと言って全部、全部無駄でした。少しずつ見えてきた彼自身の人柄や優しさが私の警戒心をするすると解

いていきました。そして今では、尊敬する人の一人です。どうしても可哀想だなと思ってしまいますが本人曰くこの怪我を負って悪いことばかりではなかったらしいのです。それもなんと彼が入院した病院で出会った看護師が、彼の奥さんなのです。つまり、この怪我は二人にとっての運命の出会いをもたらしてくれたのです。それだけではなく、フォトグラフアーの一面を持つ彼は、怪我を経て、より広い視野を得られたと話していました。たくさんの辛い出来事を乗り越えて輝いている姿はとてもかっこいいです。このように感じてい

ることは出会った当初の私には想像さえも出ていないでしょう。私はこの経験により、人に先入観や偏見をもって接してはいけないということを改めて感じました。

「差別と区別は違う」。

道徳の学習など皆さん一度は耳にしたことがあるのではないのでしょうか。では、この違いははっきり言えますか。私は耳にたこがで

きるほど聞いた言葉ですが、その違いを曖昧にしていたました。そこで、私が当初、前に述べた車椅子の親戚に抱いた感情を「差別」、今持つ感情を「区別」として考えました。両者「分ける」という意味では一緒ですが、二つの違いは物や人に対して向きあい、本質を見れているかにあると思います。「障害者」というラベルのもとで人を退けてしまったり、その人自身を決めつけることは差別です。だから、自分との違いに恐れず、逆転の発想で自分の中にはない新たな個性との出会いだと考えてほしいです。しかし、言われていることは正しくても、心の中に芽生える感情を抑えることは難しいでしょう。どんな感情を抱くかは問えません。嫌悪感を言動に出さないことだけでも徹底してください。

私は、普段通学にJRを使っていて、そこは毎日十人十色な人が利用しています。中には目立ってしまう方がいて、向けられる視線は、見守るような温かいものばかりではあり

ません。

「うわっ。」

「まじかよ。」

短く発せられる皮肉をもらす人も見ます。人が考えていることは分からないのに、わざわざ口外する理由を問いたいです。傷つくのは人間皆一緒です。

当たり前前の事ですが、人は一人一人違います。そして、私達が見るべき本質は本人と向きあわずには見えてきません。だから、とりあえずでも一度ちゃんと知ろうとする姿勢を大切にしてください。これからの長い人生、障害を抱える方々だけではなく肌の色や文化、考え方の違う人と出会いがあるでしょう。一期一会の言葉のように一つ一つと向きあいたいです。目指すのは、すべての人が生きやすい世界。